伝統と誇り



白河市 議会だより

2026.11.2
9月定例会～vol.85

議員定数削減が決定・令和７年度決算の認定

9月定例会

議案ピックアップ

◆市長提出議案……２７件
（うち人事案件２件）
◆議員提出議案……４件
（うち意見書案２件）

全ての議案の審査結果は市議会ホームページをご覧ください。

９月定例会が、９月３日から28日までの26日間の会期で開かれました。一般質問では１１人の議員がそれぞれ市の考えを質しました。

市長提出議案２７件（うち人事案件２件）のうち、令和７年度一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定等については、決算審査特別委員会を設置し、詳細な審査の後、最終日の本会議で認定及び可決されました。

また、補正予算や条例の一部改正などについて、いずれも可決または同意されました。

《９月定例会において追加された今年度一般会計予算》

17億7,517万1,000円

・主な内訳・

◆ 白河藩成立400年記念事業　　900万円

令和９年に白河藩の成立から400年の節目を迎えるにあたり、市全体で祝年の機運を高めるため、実行委員会を主体とした広報活動を行う。

◆ 伝統文化共楽事業　800万円

白河藩成立400年記念事業の一環として、令和９年度に小峰城城山公園に特設舞台を設置し「薪能」を公演するため、会場設計や運営計画の作成、チケット販売等を行う。



来年4月完成予定の小峰城清水門

◇主な提出議案

● 議案第76号　白河市財政状況の公表に関する条例の一部を改正する条例

改正の理由

地方自治法改正に伴い、白河市財政状況の公表を年２回以上から年１回以上に改正する。

● 議案第80号　白河市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

改正の理由

学校設置者等及び民間教育保育事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律施行規則の公布に伴い、所要の改正を行うもの。

● 議案第83号　白河市医師養成奨学資金貸与条例

制定の理由

渡邊薫氏の遺志を後世へと受け継ぎ、未来を切り拓く有為な人材を育成することを目的に、医師免許を取得しようとする学生に渡邊薫教育振興基金を活用した奨学資金を貸与するため、本条例を制定するもの。

●議案第86号　複合施設整備事業施設建設建築工事請負契約の一部変更について

変更の内容

契約金額を変更する。

【変更前】45億3,856万7,000円

【変更後】45億9,595万4,000円

5,738万7,000円の増額

変更の理由

分離発注を予定していた本庁舎北側駐車場外構工事について、本建築工事で計上していた舗装工事との一体施工により、来庁者の安全確保と施工期間の短縮が図れることから、本工事に追加し、請負金額を増額する。



建設中の複合施設「しらふる」

●議案第87号　複合施設整備事業施設建設暖冷房衛生設備工事請負契約の一部変更について

変更の内容

契約金額を変更する。

【変更前】８億1,845万5,000円

【変更後】８億3,813万5,100円

1,968万100円の増額

変更の理由

急激な物価や賃金の変動が生じたため、白河市工事請負契約約款第25条第６項に基づき、請負金額を増額する。

●議案第88号　複合施設整備事業施設建設電気設備工事請負契約の一部変更について

変更の内容

契約金額を変更する。

【変更前】６億4,387万4,000円

【変更後】６億7,603万6,900円

3,216万2,900円の増額

変更の理由

急激な物価や賃金の変動が生じたため、白河市工事請負契約約款第25条第６項に基づき、請負金額を増額する。また、変圧器の基準改正に伴い、変圧器の仕様を変更し、増額する。そのほか、照明設備及び機械警備設備等の数量精査により、減額する。これらの事由により請負金額を増額する。

●議案第89号　動産の取得について

主な内容

（契約の目的）　白河市立小・中学校タブレット端末等購入

（取得する動産）　タブレット端末等　計4,952台

●議会案第２号　白河市議会議員定数条例の一部を改正する条例

白河市議会議員定数条例の一部を次のように改正する。

本則中「24人」を「21人」に改める。

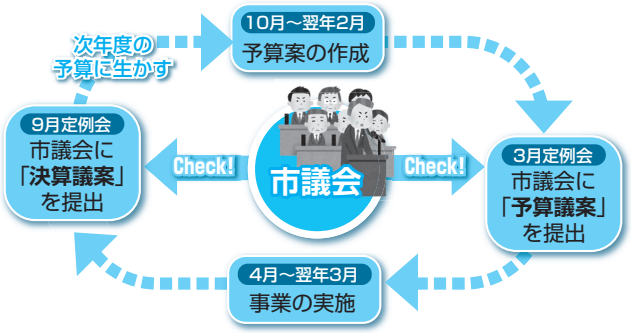
（適用区分）

この条例による改正後の白河市議会議員定数条例の規定は、この条例の施行の日以後その期日を告示される一般選挙から適用する。

令和７年度決算
決算審査特別委員会による審査を実施

決算審査とは

議会が決定した予算が適正に執行されたかどうかを審査するとともに、提出された資料に基づいてその効果を検証し、市民に代わって行政効果を評価するとても重要な制度です。



◎一般会計決算

※千円以下は切捨てていますので、合計額は一致しません。

一　般　会　計	令和7年度	令和6年度	増減率
収入済額	389億6,124万円	351億4,817万円	10.8%
支出済額	372億6,317万円	332億4,376万円	12.1%
歳入歳出差引額	16億9,807万円	19億440万円	-10,8%
翌年度へ繰り越す事業の財源	1億6,093万円	7千489万円	114,9%
実質収支額	15億3,713万円	18億2,950万円	-16.0%

歳　入		令和7年度	令和6年度	増減率
市　税	市民税・固定資産税等	110億4,463万円	97億9,531万円	12,8%
地方譲与税	国や県が徴収した税金から分配される交付金	3億6,465万円	3億5,999万円	1.3%
地方交付税	財源の不足分を国が配分する交付税	71億5,964万円	72億8,025万円	-1.7%
国･県支出金	特定の事業に対しての国や県からの補助金等	84億8,139万円	77億1,880万円	9,9%
市　債	借入金	37億7,950万円	21億9,320万円	72.3%
そ の 他	使用料、手数料、繰入金等	81億3,141万円	78億60万円	4.2%
歳　入　合　計		**389億6,124万円**	**351億4,817万円**	**10.8%**

歳　出		令和７年度	令和6年度	増減率
総　務　費	市税の徴収・庁舎の維持費等	91億9,325万円	58億2,254万円	57,9%
民　生　費	福祉、保育園運営、生活保護等	100億3,353万円	95億9,664万円	4.6%
衛　生　費	検診やワクチン接種、ゴミ処理等	19億5,323万円	20億7,038万円	-5.7%
土　木　費	道路の維持管理、河川や公園管理等	34億5,069万円	39億7,359万円	-13.2%
教　育　費	幼稚園、学校・社会教育や文化財の保護等	49億293万円	41億212万円	19.5%
公　債　費	借入金の返済	39億6,131万円	30億4,203万円	30.2%
そ の 他	議会費、農林水産費、商工費等	37億6,821万円	46億3,645万円	-18.7%
歳　出　合　計		**372億6,317万円**	**332億4,376万円**	**12.1%**

◆健全化判断比率

指　標	内　容	令和7年度	令和6年度	早期健全化基準※	財政再生基準※
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の割合	**赤字なし**	**赤字なし**	12,56%	20.0%
連結実質赤字比率	一般会計･特別･企業会計を合算した赤字の割合	**赤字なし**	**赤字なし**	17,56%	30.0%
実質公債費比率	年間の借入金返済額の割合（3か年平均）	7.7%	8.3%	25.0%	35.0%
将来負担比率	将来見込まれる負債の割合	46.9%	48,4%	350.0%	—

※この基準を超えると健全化に向けた取り組みが必要になる

決算審査特別委員会を設置

決算審査特別委員

◎	委員長	水野谷正則	
○	副委員長	大竹　功一	
	委　員	永山　　均	植村　美洋
		大木　絵理	佐川　琴次
		佐川　京子	大花　　務



個別審査

議案第90号　令和7年度白河市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第91号　令和7年度白河市水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について

議案第92号　令和7年度白河市工業用水道事業会計決算の認定について

議案第93号　令和7年度白河市下水道事業会計決算の認定及び剰余金の処分について

※委員それぞれの視点からの質疑内容を６、７ページに掲載しております。





総括質疑　議案第90号

大木　絵理 議員

Q　職員の資質向上のため、実施された取組とその成果を伺う。

A　多様な職員研修、人事評価、個別面談を行い、職員の成長やスキルアップを推進。また、採用試験の内容や方法等に工夫を凝らし、より多様なキャリアを有する職員の採用に努めている。

Q　職員研修事業の評価と自主研修の概要と成果、研修費用の妥当性を伺う。

A　昨年度は延べ962名の職員が各研修に参加。行政課題研修はこども支援課、商工課、生活防災課の３課の職員が「少子化対策」をテーマに視察研修を実施。１グループの費用上限12万円は、今後見直す必要があると考える。

Q　昨年度雨漏りが原因で屋根等を修繕した主な施設とその決算額は？雨漏りを防ぐため屋上の排水溝（ドレン）の清掃や建物の定期的な点検は行われていたのか？

A　小中学校８校を含む10施設。総額2,932万7,100円。低層陸屋根は職員が点検、清掃を実施。高所は対応が困難。業者委託は多額の費用を要する。今後方法を議論していく。

大竹　功一 議員

Q　令和７年度の一般会計決算において、令和６年度の決算額に対し、農林水産費が金額にして約８億3,500万円、率にして34.3％も減少している。主な要因は何か。

A　令和６年度は、国の「産地生産基盤パワーアップ事業補助金」として株式会社サラダボウルの現地法人である株式会社みちのく白河農園が整備した野菜生産施設に対して約６億3,000万円を支出していたが、令和7年度の実績はない。また「下水道事業会計補助金」については、農業集落排水事業に係る補助金の減少により前年度に比べて約1億9,000万円の減少となり、２事業併せて約8億2,000万円の減額となったことが主な要因である。

Q　白河市の今後の農業政策の発展について、どのように考えているのか。

A　地域農業を将来にわたり維持・発展させていくためには、「担い手」を確保・育成するとともに、「農地」を適切に活用していくことが重要と考えている。まず就農希望者に対しては、就農フェアや農業体験の機会を通じて情報を提供するとともに、具体的な相談については「人・農地相談センター」と連携しながら、就農から経営の安定まで、切れ目のない支援を行っていく。

採　決

議案第90号については、賛成多数で認定
議案第91号から93号については、全会一致で認定及び可決



決算審査特別委員会総括

水野谷委員長の視点



決算審査特別委員会では、予算執行の適正性や資源配分の効率性、事業の成果、財政の健全性を着眼点に審査を行い、特に限られた財源を最大限に活用し、公共サービスや事業が計画通りに進んでいるか、また、その成果が市民に還元されているか、各委員が質疑を行いました。農林水産業費の減少理由や、人材育成による職員の資質向上などが議論され、審査の結果、バランスの取れた投資が市民生活の向上に寄与している点を評価し、コスト削減とサービスの質の維持も肯定的に捉えたところです。今後においても市民ニーズに的確に応えつつ、持続可能な財政運営を期待しています。



新規就農者育成総合対策事業

各地域ごとの支援の状況は？

経営開始資金については、旧白河１件・大信１件・表郷１件である。また発展支援事業では同じく旧白河１件・大信１件・表郷１件の支援を行っている。今後も地域の実情にあわせて、要望があれば支援していく予定である。



大竹委員の視点



ヨル活交流事業

事業の内容と成果をどのように見ているのか？

現在、自然な出会いの少ない20代から30代の未婚の男女を対象に平日の夜間帯に気軽に交流できるイベントを開催し、出会いの機会を創出することを目的としている。イベント参加者は、毎回20人前後とある程度は予定通りだが、事業の趣旨が特に婚活向けではなく、若者が自然な出会いの中で結ばれるのが良いと考え、あえてその後の婚姻数などは調査していない。



広域観光推進事業（那須町）

FIT構想に替わる新たな広域連携が必要

ＦＩＴ構想が終了した後、白河市を中心とした新たな広域連携が必要だと思われる。那須白河観光推進協議会において、インフルエンサーの起用や、「フリーペーパー道の駅」で情報発信を行った。今後、白河―奥会津広域観光協議会も含めた新たな広域連携事業に期待したい。



永山委員の視点



企業応援社員住宅整備事業

入居率の低い市営住宅の対策を

入居率の低い市営住宅を活用し、企業の社員住宅として活用して頂く事を目的とした事業であるが、未だ入居者数は少ない。その他、様々な入居率改善対策事業を行っても、現在の入居基準では、そもそも入居出来ない方が多い。単身者の入居基準を緩和する必要がある。



アートによる文化振興事業

芸術振興のための絵画事業

白河市の伝統工芸である「白河だるま」の装飾を通して、生きがいづくり・居場所づくりを図り、多くの参加者と展示の来訪者があった。芸術振興のためには、今後は「だるま」だけでなく、絵画・彫刻に関する事業が必要と思われる。



アートだるま展

植村委員の視点



関の森公園リニューアル事業

交流人口増加のための市民農園活用

関の森公園内の「市民農園」を活用し、市民を対象とした農作物収穫体験を実施し、多くの参加者を得た。今後は、対象者を市民のみだけでなく県外の方にも拡大し、交流人口・移住者の増加につなげる契機とすることも必要ではないか。



収穫体験

EVシェアリング事業

事業の実績と評価は？

白河観光物産協会への委託事業、白河駅前にあるEV車カーシェアリングは、個人一般の利用が月０～７回。年間で合計47回だった。市民や観光客への周知が課題。今後は、周知に努め、レンタカー業者との兼ね合いも考慮し、事業を計画していく。



大木委員の視点



生活保護扶助事業

生活保護不正受給者数とその金額は?

令和７年度の不正受給数及び額の状況は、28件、総額487万7,937円だった。返済の見通しとして、生活保護世帯である場合は、保護費から生活に支障のない範囲の額に分割して天引きしていく。



不納欠損となった原因

適切な債権管理と徴収対策

地方税法に基づくもので、所得及び財産が全くなく、差押禁止財産、換価できない財産等しかない場合や生活保護法の適用を受けている場合等がある。不納欠損を防ぐためには、初期段階での発生防止、時効消滅を防ぐ適切な債権管理・徴収対策に取り組むべきである。



佐川琴次委員の視点



防災訓練活動支援事業

地域の底力再生事業の強化

集会所等での防災訓練を行った場合に、年１回３万円を交付するとある。町内会数167団体の内実施したのが、38団体の実績であった。自然災害が各地で頻発している中で、補助金を活用し、災害に備えるため、地域コミュニティ基盤強化に努めるべきである。



しらかわセーフロード事業

改修予定道路の今後の見通しは？

住宅地の側溝等の改修を行い、道路環境の安全を確保する約１億１千万円の事業。総延長25.4㎞、毎年1㎞ペースで改修を進めていて、すでに76％実施し、令和12年完成目標。道路環境は確実に改善されてきているので、さらなる推進を期待している。



佐川京子委員の視点



史跡公有化事業

白河発祥の地の整備に期待

国指定史跡借宿廃寺の指定地内の土地の、適切な保存管理を行うため5,145万5千円で公有化を実施。全9,700㎡中5,800㎡で約６割公有化した。東日本大震災の小峰城石垣崩落で当初計画がかなり遅れてしまったが、今後進むことを期待している。



借宿廃寺跡

町内会連合会運営事業

地域の底力再生事業補助金の目的は？

町内会が古くから培ってきた地域の底力の再生と強化を図り、市民協働によるまちづくりを推進することを目的として、町内会が主体的に取り組む事業に対し町内会連合会を通じて補助金を交付していく。



大花委員の視点



しらかわ観光ステーション管理事業

看板が小さいのではないか

しらかわ観光ステーションでは管理事業のほか観光情報等の発信や地元産品の紹介を行うことにより地域の活性化及びまちなかの賑わい創出を図っていく。看板と駐車場については今後検討していく。



観光ステーション

議員定数等検討特別委員会

議員定数及び報酬等の検討結果について

令和８年３月～８月延べ７回開催

❶ 設置の経緯と目的

◆検討の背景

昨年度実施した意見交換会（地域活性化協議会（４地区）・町内会連合会役員）にて「議員定数の検討を望む」意見が多く寄せられたほか、全国的な地方議員のなり手不足といった社会問題から、本年３月定例会にて本特別委員会を設置しました。

◆委員会の構成と経過

構 成 6会派から選出された８名の委員

協 議 延べ７回の委員会を開催し審議を実施

目 的 議員定数・報酬等の調査研究

❷ 議員定数に関する審査結果

審議の過程

全国の類似人口規模自治体や県内他市の現状資料をもとに議論を重ねました。各会派の意見は以下の通りに分かれました。

削減意見（４会派）

削減人数（2～4人削減）に差異あり

現状維持意見（２会派）

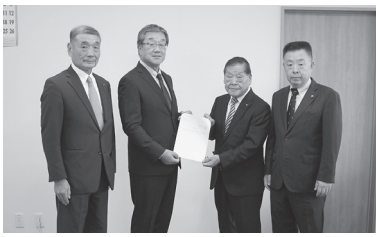
現行の定数24を維持する考え

全会一致に至らなかったため採決を実施し、賛成多数で「定数削減」を委員会の意見と決定しました。

委員会のとりまとめ結果

議員定数を「3人削減」

類似団体の定数や、市域面積に対する議員１人あたりの面積割合などの地理的条件を勘案し、削減賛成派に現状維持１会派を加えた５会派で合意しました。

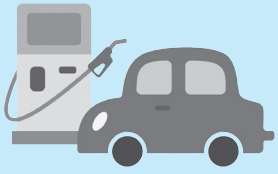


筒井孝充委員長から石名議長へ報告書が手渡されました。

❸ 議員報酬等に関する審査結果

【意見一致】費用弁償（交通費）

自宅から議場まで片道距離２㎞以上の議員に対し、自動車での移動に伴うガソリン代実費弁償として支給が必要との意見で一致しました。



【要望】報酬・政務活動費

議員報酬・委員長報酬・政務活動費は各会派の意見の隔たりが大きかったため一括取りまとめは見送り。「白河市特別職報酬等審議会」開催時に適切に対応いただくよう要望することとしました。

議会案第２号・質疑・討論・採決結果

白河市議会議員定数　3人削減（24人⇒21人）へ

①議員定数条例の一部を改正する条例案（議会案第2号）

改正のポイント　**本則中「24人」を「21人」に改める**

◆施 行 期 日　　適　用：公布の日から施行し、次期一般選挙から適用されます。
提出者：佐川京子議員、筒井孝充議員ほか賛成議員

②議案に対する主な質疑　　質疑者　深谷　弘 議員

（1）提案理由に、「前回の改正時から現在までの人口の推移や、類似市の議員定数の状況、将来の人口減少などを見据え」とある。
①前回改正時（平成 30 年・2018 年）から 8 年、市の人口はどのように推移したか。
②類似市の議員定数の状況はどうなっているか。
③将来の人口減少をどのように見ているのか。
④提案理由に挙げられている理由のほかに、議員定数を減らす理由はあるか。
（2）議会に対する市民の意向（議会に求めていること）を、どのようにとらえているのか。
（3）議会の基本原則は、市議会基本条例に定められている。議員定数を減らすことが、市議会基本条例に定めた基本原則に敵うものなのか。
（4）なぜ、3 人削減なのか。
質疑の詳しい内容については、QR コードをご覧ください。

③白河市議会議員定数条例の一部を改正する条例に対する討論

可決

反対討論　　深谷　弘 議員

今度の議員定数３人削減案というのは根拠に乏しいものである。将来の人口減少、類似市の議員定数状況など、もっともらしい指標を挙げて白河市も減らすべきだという理屈で、なぜ議員の数を減らすのか、なぜ３人減なのか、納得を得られる根拠が示されていない。

一番欠けているのは、議会に対する市民の意向（市民が議会に求めていること）とのギャップである。議会に対する市民の意向（市民が議会に求めていること）への答えは、平成 27 年６月に議会自らが決定した白河市議会基本条例（議会基本条例）の中にある。議会基本条例は、議会・議員の活動原則を定めている。議員間の自由な討議を重んじること、市民の意見を的確に把握すること、議員としての資質を高めること、市民全体の奉仕者及び代表者として、ふさわしい活動をすることなどである。今議会・議員に求められているのは、議員の数を減らすことではない。自らの活動を点検し、改善していくことではないか。

賛成討論　　戸倉　宏一 議員

本市では、平成30年3月に「白河市議会議員定数条例の一部を改正」してからなお、人口減少の一途をたどり、また、少子高齢化の進展により社会保障費が増加するなど、急激な社会構造の変化が著しい状況にある。市民の負託に応える我々は、将来を見据えた財政見通しや人口の推移、国、県、あるいは類似自治体の議員定数についての動向を踏まえながら、対応する責務がある。議会の役割は、住民の意見を的確に市政に反映させ、市民福祉に資する施策等の条例を審議する立法機能や行政の監視機能が主たる任務である。今回、議員定数等検討特別委員会が調査研究に用いた「全国市議会議長会」の資料によると、議員定数等を21人とした場合、類似自治体の人口あたりの議員数と比べて決して少なすぎることはない。議員数の多さがより多くの住民の意見を反映するとの考えを改め、いかにして我々議員自らの質を高め、不断の努力を怠らずに議員活動に精進することが、議会改革の基と考え賛成する。

意見書

■ 意見書案第４号　「非核三原則」の堅持を強く求める意見書

可決

<要　旨>

日本には「核兵器のない世界」をめざす行動の先頭に立つ責任がある。「核を持たず、つくらず、持ち込ませず」の三原則は、世界で唯一の戦争被爆国である我が国が国是として強く位置づけ、核兵器の廃絶をめざす平和国家・日本の礎として確立されている。よって、国に対し、国是である非核三原則を堅持されることを強く求めるものである。

■ 意見書案第５号　給付付き税額控除制度の導入に関する意見書

可決

<要　旨>

国においては、地方の実情を十分に踏まえ、行財政運営に十分に配慮した制度設計とすることが何より重要であることから、次の事項について、対策を講じるよう強く求める。

1　国として、地方が提供する社会保障サービスをはじめとする各種行政サービスに影響が及ぶことのないよう、必要な財源を確実に措置すること。

2　給付事務について、地方の負担に十分に配慮した効率的で簡素な制度とするとともに、人材の確保が困難な自治体に対する支援を講じるなど、負担軽減に最大限努めること。

意見書案第４号、第５号については関係機関に提出しました。

討　論　議案第90号　令和7年度白河市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定について

認定

賛　成　　大竹　功一 議員

「決算とは歳入歳出予算に基づく収入と支出の結果を集計した計算書である。予算を執行した結果、どのような成果を挙げたかを示す成果報告書でもある」とも言える。そのため議会は、決定した予算が適正に執行されたかどうかを審査するとともに各種資料に基づいて、その行政効果や経済効果を測定し、住民に代わって行政効果を評価することとなっている。

そして、審査の結果が、後年度の予算編成や行政執行に生かされるよう指摘することが重要である。今回、歳出における各事業について、私を含む決算審査特別委員会の8人の委員は、真摯に審査し、担当者に対して質疑をし、今後についても意見を申し上げた。よって私は、令和7年度白河市一般会計及び各特別会計歳入歳出決算の認定ついて、賛成すべきだと判断した。

反　対　　深谷　弘 議員

一般会計予算案の審議の中で、学校給食費無償化への市のスタンス（姿勢）を取りあげ、市民の願い、期待に応えたものとはなっていないと指摘した。市の財政状況は健全であり、常に80億円を超える積立金がある。これらを活用すれば、市独自の無償化を実現できると提案した。

これに対し、市は「決して否定するものではない、市のやる気、決断の問題ではなく、財源の継続的な確保を理由に挙げ、国による一律無償化の動きを注視しながら慎重に議論していく」というスタンスを変えようとしない。

余裕財源である財政調整基金、減債基金及び公共施設等整備基金の合計額は、常に80億円超であり、令和７年度は年間3.6億増の84億6,172万5,000円となった。

積立金の活用について、市は公共施設整備等に今後多くの財源が必要となり、財政健全化の視点から積立金を活用する考えである。物価高騰で暮らしが大変なとき、市に求められているのは、市民の負担軽減を図ることではないか。

人事案件

○議案第101～102号　人権擁護委員の候補者の推薦について

人権擁護委員　**長谷川崇信**（表郷中寺・再任）

藤田　克彦（表郷金山・新任）

任期　３年　令和９年１月１日から令和11年12月31日

同意

本会議の採決（賛否がわかれたもののみ記載）

議案名 ※○は賛成　※●は反対 ※欠は欠席 ※議長（石名国光）は採決に加わらない	永山均	遠藤公彦	植村美洋	大木絵理	吉見優一郎	鈴木裕哉	高畠裕	佐川琴次	戸倉宏一	根本建一	室井伸一	緑川摂生	柴原隆夫	菅原修一	北野唯道	水野谷正則	佐川京子	大花務	高橋光雄	大竹功一	筒井孝充	深谷弘	議決結果
議案第90号　令和7年度白河市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	認　定（賛成多数）
議案第102号　人権擁護委員の候補者の推薦について	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	同　意（賛成多数）
議会案第2号　白河市議会議員定数条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	可　決（賛成多数）

◎議案第76号～89号、91号～101号、議会案第3号、意見書案第4、5号については、いずれも全会一致で可決、同意または認定しました。

総務 常任委員会

市役所正面の駐車場造成工事は、複合施設建設建築工事に含まれ、本建築工事に追加

議案第76号白河市財政状況の公表に関する条例の一部を改正する条例のほか、議案6件が付託され、いずれも原案の通り、可決または同意されました。

議案第77号　白河市東日本大震災による被災者に対する市税等の減免に関する条例の一部を改正する条例

Q　本市に居住している市税等の減免対象者の人数は

A　令和８年度において国民健康保険税の減免対象は15世帯24人で、減免額は86万7,100円。介護保険料の減免対象は6人で、減免額は26万円。

議案第86号　複合施設整備事業施設建設建築工事請負契約の一部変更について

Q　議案第86号のうち、本庁舎北側駐車場外構工事を複合施設の舗装工事等と一体施工することについて

A　当初、市役所正面の駐車場造成工事は、土木工事として単独発注を予定していたが、施設建設建築工事に含まれる舗装工事と同時に施工することで工期の短縮などが図れるため、本建築工事に追加した。

市民産業 常任委員会

定率タクシー移動支援事業は、運転免許証の所持による制限は設けていない

議案第81号白河市認可地縁団体印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例のほか、議案１件が付託され、いずれも原案のとおり可決されました。

●議案第94号　令和８年度白河市一般会計補正予算（第２号）

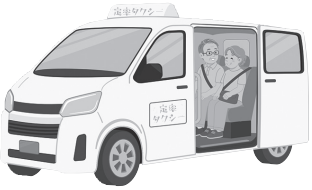


Q 地域農業構造転換支援事業補助金で対象となった２つの事業者が導入する機械について

A オートあぜ塗り機、トラクター、コンバイン等を導入する。

Q 定率タクシー移動支援事業は、交通弱者の身体的・経済的な移動負担を減らすことを目的としているが、運転免許証の所持者も交付対象に含まれるのか

A 運転免許証の所持者でも、高齢の方で身体機能や認知機能の低下に伴い、安全に運転ができない方や、体調不良により、一時的に運転ができない方などが想定されるため、運転免許証による制限は設けてない。



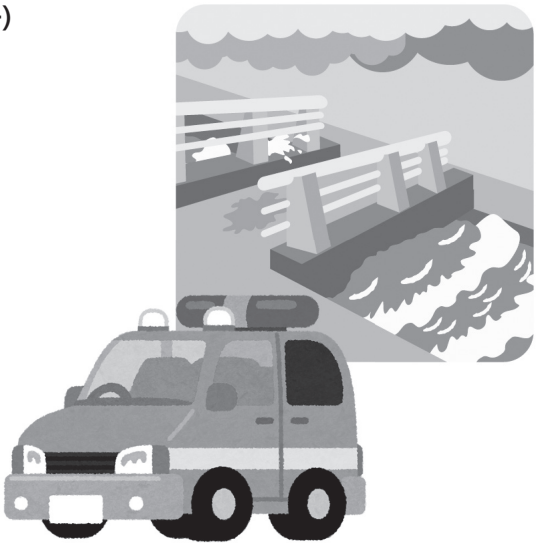
建設水道 常任委員会

今後も上下水道事業の経営の健全化に取り組んでいく

議案第84号白河市水道事業及び工業用水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例のほか、議案5件が付託され、いずれも原案の通り可決されました。

●議案第94号　令和８年度白河市一般会計補正予算（第２号）

安全安心な生活道路河川保全事業



Q 道路・河川の保全作業を行う際の基準や優先順位、道路パトロールの頻度について

A 草刈り等道路の保全作業は道路脇などの官地部分を行っており、幹線道路や交通量の多い路線を優先的にパトロールし計画を立て対応している。
道路のパトロールは舗装の陥没や支障木等の確認のため毎日行っており、補正予算にて保全作業を実施したい。

教育福祉 常任委員会

白河市医師養成奨学資金貸与条例を制定

議案第94号令和８年度白河市一般会計補正予算のほか、議案８件が付託され、いずれも原案のとおり可決または同意されました。

議案第83号　白河市医師養成奨学資金貸与条例

Q 貸与資格者が経済的理由により修学が困難と判断する収入基準は

A 保護者の合計所得が1,805万円以内を想定している。



議案第89号　動産の取得について

Q 白河市立小・中学校タブレット購入台数4,952台のうち、予備機を604台とした根拠は

A 文部科学省の調達ガイドラインに基づき、児童生徒用端末、4,033台の15％にあたる604台を予備機として購入する。

議案第94号　令和８年度白河市一般会計補正予算（第２号）

Q 不登校児童生徒教育支援センターの設置状況は

A 市で設置している「さわやか教室」と第一小学校、表郷、東中学校。県が設置している、中央中学校、第二中学校、第二小学校である。

教育福祉常任委員会　現地調査　７月15日

わかば保育園

【こども誰でも通園制度を活用した保育事業について】

本年度から全国で本格実施された「こども誰でも通園制度」の利用実績などについて、保健福祉部及びわかば保育園から説明を受けた後、園内施設の現状を視察しました。民間施設も含め、より利用者の増加を考えるのであれば、保育士の確保や保育スペース拡大が必要であり、国の補助金拡充が課題であると思われました。



表郷こども園

【増築工事が完了した施設の視察】

既存幼稚園に保育園部分を増築し、９月１日に開園した「表郷こども園」について、施設の視察を行いました。既存の幼稚園のイメージに合わせて保育園を増築しており、敷地も広く、とても良い子育て環境であると感じられました。随所に最新の設計・施工が取り入れられており、使いやすく充実した子育て支援の環境が整ったと思われました。



関辺小児童クラブ

【放課後児童クラブの運営状況等について】

放課後児童クラブの運営を民間に委託したことによる、大きな変化や課題は特にないように思われました。白河市内全域の児童クラブについて、施設の充実など、こどもや保護者にとってより利用しやすい環境を引き続き整備していく必要があると思われました。



市民産業常任委員会 ～ 行政視察リポート～

所管事務調査の一環として、7月6日から8日まで、群馬県川場村及び新潟県魚沼市にて行政視察を実施しました

〈参加者〉委員長：菅原　修一　副委員長：遠藤　公彦
委　員：植村　美洋　委　員：鈴木　裕哉
委　員：根本　健一　委　員：室井　伸一

群馬県川場村

【川場田園プラザと連携した「農業+観光」施策官民連携による川場田園プラザ運営】





一般的な道の駅は、休憩所、案内所、トイレの基本施設に農産物直売所と食堂またはレストランが加わることで構成されるケースが多いが、「道の駅川場田園プラザ」は、川場村の村づくりの基本路線である「農業＋観光」の集大成と位置づけ、それぞれストーリー性を持たせた自社運営する施設の他に広場やブルーベリー園が集積しており、食の魅力・施設の魅力も相まって充実しているとともに5ヘクタールの敷地の確保ができたなどの要因が重なった結果となっています。今回の行政視察は、本市の道の駅建設の要否も含め「農業＋観光」によるまちづくりについて大変参考になりました。

新潟県魚沼市

【ブランド米の農業政策】

日本有数のブランド米で知られる「魚沼産コシヒカリ」は、これまで、県普及指導センター及びJAにおいて「量より質」を求めた指導を徹底し、肥料管理、気象変動等の情報伝達においては、新聞折り込み、回覧板等の他にメール、ライン等による発信により、技術的な指導を徹底しています。行政においては、将来の農地利用の姿や、農地集積・集約化に向けた将来設計図となる「魚沼市地域計画」を令和７年３月に策定し、地域計画の推進と実効性を確保するため、令和７年度に一つのパッケージ事業としてスタートした「魚沼市農業未来創造事業」において、営農継続支援・新規就農支援・農村集落維持支援を行っています。このように、生産者・JA・行政が一体となって魚沼産コシヒカリを生産しています。今回、魚沼市のブランド米の農業政策について学んだことを本市に反映させていきたいと思います。



市民産業常任委員会 ～ 行政視察リポート～

所管事務調査の一環として、7月29日に西白河郡矢吹町にて行政視察を実施しました。

〈参加者〉委員長：菅原　修一　副委員長：遠藤　公彦
委　員：鈴木　裕哉　委　員：根本　建一
委　員：室井　伸一

西白河郡矢吹町

【農業版企業誘致事業について】

はじめに、矢吹町農業振興課より矢吹町農業版企業誘致についての説明を受けたのち、現地にて郡山市の農業生産法人「まどか菜園」代表取締役の鈴木清美氏より、進出した経緯や野菜栽培について説明を受けました。矢吹町が農業版企業誘致に取り組むきっかけとなったのは、水不足や後継者不足による耕作放棄地増加というピンチを企業参入と大規模営農により担い手確保と農地利用を一体的に推進するというチャンスに変えた、非常に先進的な取り組みであり、本市においても耕作放棄地の増大は大きな課題であり農業振興や企業誘致を進める上で非常に参考となりました。



一般質問

Point 一般質問とは

◇一般質問とは行政全般にわたり、市長などの行政側に対し、現状や見通しを質問したり、あるいは報告や説明を求めたりすることです。

◇時間制限は質問、答弁時間を含めて60分以内です。

◇一般質問をする議員はその要旨を事前に通告することとなっています。

9月定例会では11名の議員が一般質問を行いました。
本会議のネット中継及び録画配信を行っています。
ホームページや各議員のQRコードから視聴できます。

9月定例会において多くの方が傍聴にお越しくださいました。ありがとうございました。

本市の住みやすさ向上に公共交通の更なる充実を求む

市内どこに住んでいても少ない負担で利用できるよう検討



佐川　京子 議員

Q 公共交通は市民生活に便利さと生活に潤い安心をもたらすので、さらなる充実を望む。「定率タクシー移動支援事業」は、上限5千円の運賃半額補助で市民に好評であるが、今後市内循環バスのエリア拡充、市民に公平な「タクシー定額均一料金」の導入を望む。

A 本市は思考錯誤を重ね利用しやすい公共交通の在り方を模索している。システムを整えるため、市の財政負担に配慮し検討を加え、今後とも全力で取り組む。



Q 農業政策について、今、米農家は、一昨年の米不足からの米価の高騰、今年の米余りによる米価の下落、これら乱高下により経営が危機に瀕している。農家が持続可能で安定して美味しいお米を生産出来るよう力をつくしてほしい。

A 本市の農業は、大規模農業者ばかりでなく多くの小規模農業者により支えられている。地域農業全体の振興を念頭に的確な支援のあり方を検討していく。農業を取り巻く環境は厳しいが、担い手が希望を持って農業経営の継続が出来るよう、農地が次世代に円滑に引き継がれるよう地域農業の維持発展につなげていく。

貴重な遺跡の管理・活用を充実させる

遺跡の改修・移設、説明板の設置を検討



植村　美洋 議員

Q 南湖公園の共楽亭はかなり老朽化しており改修が必要と思われるが、考えを伺う。

A 現地調査を実施した上で文化財としての価値を損なうことがないよう、適切な修復を検討していく。



共楽亭

Q 「南湖開鑿碑（なんこかいさくひ）」は元々あった湖畔の位置に戻すべきと思うが、考えを伺う。

A 本来の位置に戻す調査・検証を行い移設の検討をしていく。

Q 旧白河城（小峰城）大手門の説明板を設置してはどうか、考えを伺う。

A 大手門の存在や歴史的価値を知って頂き、地域の歴史を伝える上でも意義があることから、設置に向けて検討する。

Q 「農産物ブランド白河しろもの」のブランド品を組み合わせた商品の開発が必要と思われるが、考えを伺う。

A メニューや弁当などの商品開発を進めるとともに、販売促進、販路拡大に向けて事業を展開していく。

Q 「しらふる」における生涯学習に関する事業はどのように計画されているか。

A 中央公民館の講座を継続しつつ、時代の変化に対応した講座を企画する。

母子避難所の整備を！

災害の規模、状況に応じた避難所運営を行う



根本　建一 議員

Q　これまでの全国的な自然災害からどのような教訓を得て、日頃の防災行政にどのように反映させていくのか伺う。

A　避難所運営についてプライバシーの保護、高齢者や母子、ペット連れなど状況に応じた対応や災害関連死を防ぐ取組、また、速やかな給水活動などがあげられる。一自治体の対応には限界があるため、近隣の自治体、友好都市、民間企業などと支援体制を図ること等である。

Q　妊産婦や乳幼児を抱える世帯が安心して避難生活が送ることができるよう、母子避難所の整備や母子に配慮した専用スペースの確保、必要物資の備蓄、運営体制の整備が必要と考えるがどうか。



A　災害による避難生活は、不安やストレスを抱えやすくなる。とりわけ、妊産婦や乳幼児などの災害弱者は、更に負担がかかることから、専用スペースが必要となる。政府ガイドラインを参考に、災害の規模や状況を勘案して設置していく。また、運営にあたっては、女性職員を配置するなど配慮する。本年度、乳幼児の避難に対応するため、おむつや体ふき、離乳食などの備品を購入した。

戦没者慰霊碑の維持管理について市の関わりは

情報共有を図り意向を伺いながら協議する



戸倉　宏一 議員

Q　戦没者慰霊碑（忠魂碑）の維持管理における課題と市の関わりについて伺う。

A　民間団体等が建立した戦没者慰霊碑の維持管理は当該団体等により行われるのが基本であり、本市においても遺族会が中心となり役割を担ってきた。近年会員の高齢化や後継者の不在により、組織の維持も苦慮していると聞く。情報を共有し意向を伺いながら協議していく。

Q　散逸する戦没者遺品を含む戦時関係資料の保存について伺う。

A　ご遺族等から資料の寄贈等の相談があった場合、総合的に判断し対応する。

Q　大信総合運動公園野球場管理について伺う。



小峰城跡慰霊碑

A　大信球場はこれまでもナイター照明や放送設備など必要に応じて修繕を実施してきた。一・三塁側の応援スタンドに設置してあるベンチはプラスチック製の座面のため、経年劣化等による破損が著しいことから、座面を撤去する。引き続き市民の皆様が安全かつ快適にスポーツ活動ができるよう施設全体の状況把握に努め、適切な維持管理に取り組んでいく。

孤独死・孤立死のリスクを減らす施策について伺う

孤独・孤立に至る前に、支援が届く体制整備に取り組む



遠藤　公彦 議員

Q　本市において、単身世帯の増加が見込まれる中、孤独死・孤立死のリスクを減らすために、どのような施策を行っていくのか伺う。

A　官民・多職種が連携し、AI技術なども活用しながら、深刻な孤独・孤立に至る前に、支援が届く体制整備に取組む。



Q　新幹線停車駅の利便性を生かした移住・定住の取組として積極的にPRすべきと思われるが、考えを伺う。

A　現在、市ホームページや公式LINE等への掲載、市民課窓口でのチラシ配布に加え、東京で開催される移住フェアにおいて「転職なき移住」の有効な支援策として積極的にPRするなど、広く周知に努めている。

Q　部活動の地域展開を推進していくにあたり、学校部活動が担ってきた教育的意義は極めて重要と考えるが、どのようにして継承していくのか伺う。

A　指導者において、これまで学校部活動が担ってきた教育的意義や役割を伝えるとともに、研修を受講していただく。

こころのAI相談窓口実証実験の成果は

3か月間で398件の相談が寄せられた



室井　伸一 議員

Q　白河市こころのAI相談窓口はどのようなシステムなのか伺う。

A　臨床心理士や言語学者が監修した「傾聴・共感」に特化したAI相談システムで、スマートフォンなどから24時間いつでも悩みを相談することが可能である。

Q　こころのAI相談窓口実証実験の成果について伺う。

A　平日の夜間や休日などの閉庁時間帯での利用が半数以上あり、24時間相談できる有効性が証明された。また、10代～30代の相談が全体の約4割を占めており、悩みを抱えている若者に対する早期支援に有用であることを確認できた。

Q　こころのAI相談窓口の今後の活用について伺う。

A　今年度中の本格導入に向けて準備を進めているところであり、既存の相談体制とデジタル技術を効果的に融合させ、市民一人ひとりに寄り添った支援体制を構築していく。



白河市こころのAI相談窓口

国道289号八十里越の開通を見据えた展望

奥会津へのゲートウェイとしての役割を担う



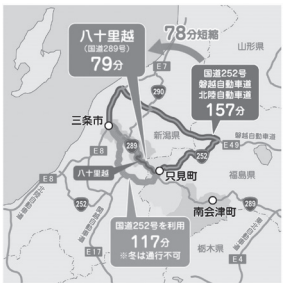
佐川　琴次 議員

Q　令和9年夏に、国道289号八十里越の開通を見据えた、本市と奥会津地域との広域観光連携の展望について、市長の考えを伺う。

A　八十里越は、豊かな自然環境の中を通り、素晴らしい眺望が望める道路であり、来年夏には八十里越が開通する予定であり、新潟県側との時間的な新たな交流や連携を促し、経済効果を生み出す大きな契機になる。私が本年5月に発起人となり、奥会津などの十一町村へ呼びかけて白河―奥会津広域観光協議会を設立した。今後は只見町と隣接する三条市において、観光プロモーションを展開しながら、開通後を見据えた相互誘客や新たな広域観光ルート形成を進めていく。

Q　東地域活性化協議会の第5期活動報告書における東風の台運動公園活性化に向けた提案について市の考えを伺う。

A　5つの提案の中で、東風の台運動公園内の桜ライトアップを行い、地域の桜の名所として魅力を発信した。屋外トイレの整備は来年度に予定。オートキャンプ場などの整備は今後調査・研究する。



国道289号八十里越の効果

白河藩成立400年記念事業と伝統文化共楽事業の概要は

5月に小峰城清水門前に特設舞台等を設置し薪能を上演



大花　務 議員

Q　白河藩成立400年記念事業と伝統文化共楽事業の概要について伺う。

A　来年4月に清水門復元工事完成記念式典と小峰城さくらまつりを、5月22日に伝統文化共楽事業として小峰城清水門前に特設舞台と約1000の客席を設置し、かがり火のもとで薪能を上演する。演目は白河藩主松平定信公を敬愛し南湖神社の創建にも尽力した渋沢栄一を主人公とする「青淵」である。

Q　清水門復元整備事業の進捗状況と今後の予定について伺う。

A　工事全体の約85％の進捗率となっており、今後は建物内部の仕上げ工事に加え清水門へつながる土橋の舗装やライトアップ照明などの外装工事を進め、予定通り来年3月の工事完了を見込んでいる。4月上旬に白河藩400周年記念事業の一環として清水門復元完成記念式典を開催しテープカットやくぐり初めなどを予定している。

Q　中央公民館の全21教室の担当者について伺う。

A　全て社会教育指導員4名が担当している。



建設中の清水門

近隣にある会社の造成・増設、市民の安全・安心は?

建築基準法や消防法を遵守させ、施設の安全管理に配慮



大竹　功一 議員

Q　市民の方から近隣の会社において、現在の敷地内が新たに造成され、工場が新設されると聞いた。新規工場等の安全・安心はどのようになっているのか。

A　新規工場は、主に防衛装備品の製造だと聞いている。市民への安全・安心について、企業に対しては、建築基準の安全管理に十分配慮を求めていく。また、工場等に伴う騒音、振動、粉じんなど周辺環境への影響についても必要な対策を講じるよう要請していく。

Q　防衛装備品を製造している企業に対して、他国からの攻撃等の緊急事態が発生した場合、市民への周知や避難などはどのように考えているのか。

A　他国からの攻撃などの緊急事態時での市民への周知及び対応については国からのジェイアラートを通して呼びかけると共に防災無線等を活用し避難を呼びかけることとなっている。また、有事の際には、国民保護計画に基づき、影響を受ける自治体において災害対策本部を設置し、国や関係機関と連携調整を図りながら、情報の収集や避難場所の確保及び誘導などの対応をすることとなっている。



誰もが安心して避難所生活ができるよう環境整備と実態把握を!

多様な配慮を想定し、各環境を整備。市民の情報提供を促す



大木　絵理 議員

Q　大規模災害に備え、自主防災組織の設立とその強化を望むが市の考えは?

A　本市の自主防災組織率は16・8％。交付金は1回に限り10万円が上限。今後は組織設立を促進、直接町内会等に働きかけていく。

Q　災害関連死を防ぐためにも、誰もが安心して避難所生活ができるよう、環境整備と避難先での困り事等、各世帯への実態把握を。

A　避難所では、プライバシーを守る区割り、必要に応じて会議室等個別の部屋を確保。医師や保健師へ相談できる環境を整備。「我が家の防災マップメモ」を活用し、市民の自発的な情報提供を促す。

Q　複合施設のランニングコストは?

A　現在精査中。概算見込み額の決定は11月頃になる予定。

Q　投票率向上、主権者教育を目的とした「投票証明証」「親子投票記念証」の発行について市の考えは?

A　一定の効果がある一方、有権者の公平性が確保できるか等、様々な検証が必要。



瀬戸内海放送より引用

令和９年度からの介護保険料はどうなるのか

国の方針が示されていない現時点では、示せない



深谷　弘 議員

Q　介護保険事業3年ごとの見直し、第10期（令和9～11年度）介護保険事業計画の策定作業はどうなっているか。

A　策定スケジュールでは、今年1月から2月にかけ将来の需要推定を行うため日常生活・県域ニーズ調査及び在宅介護実態調査を実施した。7月に国から示された基本指針案を踏まえ、地域課題等を議論し計画骨子を整理する。12月には国より正式な基本指針及び介護報酬の改定率が示される予定となっており、計画素案を作成し、来年1月頃に運営協議会で審議、パブリックコメントを経て、2月頃の運営協議会に図り、最終計画案をまとめていく予定である。

Q　現段階において介護保険料はどうなるのか。国のいろんな考え方や動向などを見たときに、全体として介護保険料は引き上げになる方向なのか。

A　12月頃、国から介護報酬の改定率が示されることになっている。現時点では保険料の方向性（どうなるのか）を示すことはできない。



踊り流しに参加　～白河関まつり～

８月２日に開催された「白河関まつり」にて踊り流しが開催され、市議会としても参加をさせていただきました。当日は、例年の厳しい真夏の猛暑とは異なり、心地よい涼しい風が吹き抜ける絶好の祭り日和となりました。熱中症の心配も和らぎ、小さなお子様からご高齢の方まで、参加者も観客も終始笑顔で快適に過ごせる素晴らしい環境に恵まれたと感じております。「白河おどり」の軽快な音頭に合わせ、小峰通りを埋め尽くした各団体が息の合った見事な踊りを披露しました。それぞれの工夫を凝らした衣装や一糸乱れぬ動きは大変見応えがあり、沿道からは途切れることなく温かい拍手が送られていました。また、コンテストにおいては、白河信用金庫チームの皆様が最優秀賞を受賞されました。踊り流しを通じて、白河の伝統文化が世代を超えてしっかりと受け継がれていること、そして地域の絆の深さを改めて実感いたしました。市議会として、今後も地域の活性化と伝統の継承に微力ながら貢献してまいりたいと思います。





令和８年度　福島県市議会議員研修会に参加

８月４日、いわき市「パレスいわや」にて開催され、白河市議会から15名の議員が参加しました。早稲田大学デモクラシー創造研究所招聘研究員の議会事務局研究会共同代表の清水克士先生による「住民福祉の増進に向けて議会は何ができるか」について、講演を受講してきました。先生は元大津市議会事務局長として、長年にわたり地方自治体の議会事務局として経験があり大変的を得た講演の内容で大変参考になりました。



目指せ！ペーパーゼロ議会！

本市議会に１人１台のタブレット端末が導入されてから１年10カ月が経ちました。これまでは定例会ごとに、議案書や予算書、請願・陳情書などの膨大な書類が紙で配布されていましたが、タブレットの導入によりペーパーレス化が着実に進んでいます。

端末の操作スキルには個人差があることから、更なる「ペーパーレス、ペーパーゼロ」を目指して、議会独自の研修会を開催しました。

研修会の開催状況と内容

第１回（７月16日）：19名の議員が参加

第２回（10月６日）：14名の議員が参加

研修会では、模擬常任委員会の実施や、記録の記入方法など、各議員実践的な活用方法を学びました。これからもより効率的な議会運営に努めてまいります。



議会だよりはホームページでご覧になれます。
ホームページアドレス　https://www.city.shirakawa.fukushima.jp/
発行：白河市議会　編集：議会報編集委員会
〒961-8602 福島県白河市八幡小路7-1 ☎0248-22-1111

12月定例会の予定　正式には開会日に決定します。

● 時間：午前10時から　● 場所：本庁舎４階　議場

１２月　３日	（木）本会議【開会、会期決定、提案理由説明】
１２月　９日	（水）本会議【一般質問・質疑１日目、委員会付託（請願・陳情）】
１２月１０日	（木）本会議【一般質問・質疑２日目】
１２月１１日	（金）本会議【一般質問・質疑３日目、委員会付託（議案）】
１２月１４日	（月）委員会【各常任委員会・付託案件の審査】
１２月１６日	（水）本会議【各常任委員長報告、質疑、討論、表決、閉会】

本会議はインターネット中継及び録画配信を行っています。

こちらのＱＲコードを読み込んでください。

ぜひ、議会傍聴にお越し下さい

議会傍聴・議場見学 ～インターンシップ参加学生の声～



「初めて議会を傍聴しました」



福島県立医科大学　2年　草野 志温さん

今回インターンシップに参加し、初めて議会を傍聴しました。市民の思いを市政に生かすために活動されている議員や理事の皆さんの凛々しい姿を見ることができ、貴重な経験となりました。今回の経験を踏まえながら、自分の住む地域や県の議会、選挙など、政治についてより詳しく調べてみたいと感じました。

「市に対する思いが感じられました」



福島県立医科大学　1年　本田 愛実さん

私はインターンシップへの参加をきっかけに、人生で初めて白河市の議会傍聴、議場見学をしました。一般質問では、議員さん一人ひとりが個性のある質問をなさっていて、市に対する思いが感じられました。そして、議長席に座らせていただいたりなど、貴重な経験をさせていただきました。このインターンシップでの学びと出会いに感謝して、これからも頑張ります！

担当　大木　絵理



編集後記

表紙は、「白河提灯まつり」の最終日の写真です。

この祭りは、日本三大提灯まつりの一つに数えられており、江戸時代から約３７０年続いている伝統と格式ある祭りです。

正式には「鹿嶋神社祭礼渡御祭」といいます。昼は旧城下町で町内の子どもたちによる屋台・山車の引き廻し、夜は旧奥州街道沿いを鹿嶋神社の神輿が21町内会提灯行列によって送迎される神輿渡御などが行われます。提灯の油紙を通してのともし火の美しさは、江戸時代にタイムスリップした感があります。

今年は、伝統の魅力をより多くの人に魅せたいという思いから、初めて小峰城が出発地となりました。

これからも、新たな変化を取り入れながら、古き良き伝統を受け継いでいくことが大切ではないでしょうか。

委員　佐川　琴次